

3 . 交通結節と駅前広場について

3 - 1	東西駅前広場の機能分担	
	及び乗り換え動線	2 5
3 - 2	駅前広場の交通施設配置	
	及び環境空間のあり方	2 6

3. 交通結節と駅前広場の整備について

3-1 東西駅前広場の機能分担及び乗り換え動線

～ 森の都の風香る玄関口 パークステーション ～



整備目標

水と緑の自然や歴史性を活かした駅人に優しく乗り換えの利便性の高い駅
出会いとふれ合いのある駅

駅前広場の整備方針

東西駅前広場の機能分担

東口：中心部及び市域対応を中心とした交通機能の集約強化
西口：西側開発、アクセス需要増に応じた交通機能等

万日山～駅～白川方面を結ぶアメニティ軸

歩行動線の軸として、駅東西を通じて人々が水と緑とふれ合い、楽しく歩ける空間づくり

東駅前広場に“森の都熊本”を実感できる歩行者広場

熊本の玄関口として、人々をやさしく出迎えたり、やすらぎを感じる憩いの空間を創出

東口施設レイアウト

高齢者・身障者等の送迎に配慮し、タクシー及び一般車乗降場をコンコース付近に配置 最も乗換利用者が多い市電電停をコンコース正面に優先して配置、だれもがわかりやすく、乗り換え利便性の高い交通結節点の形成

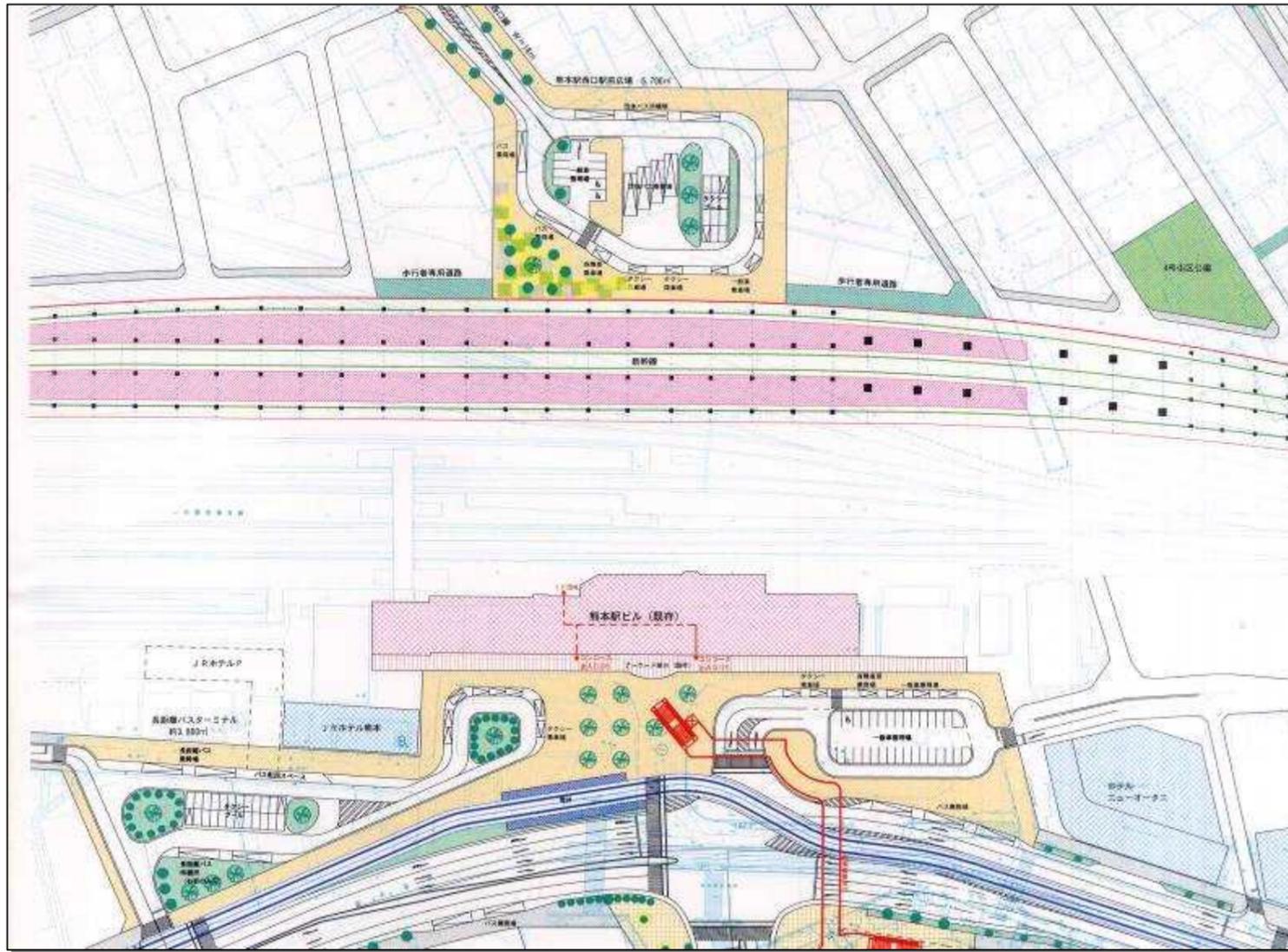
西口駅前広場

区画整理によって生まれ変わる西口の玄関口として整備し、観光バス、団体バス等の不定期バスの機能を導入

歩行者広場のイメージ



3 - 2 駅前広場の交通施設配置及び環境空間のあり方
 (1) 駅前広場の基本計画

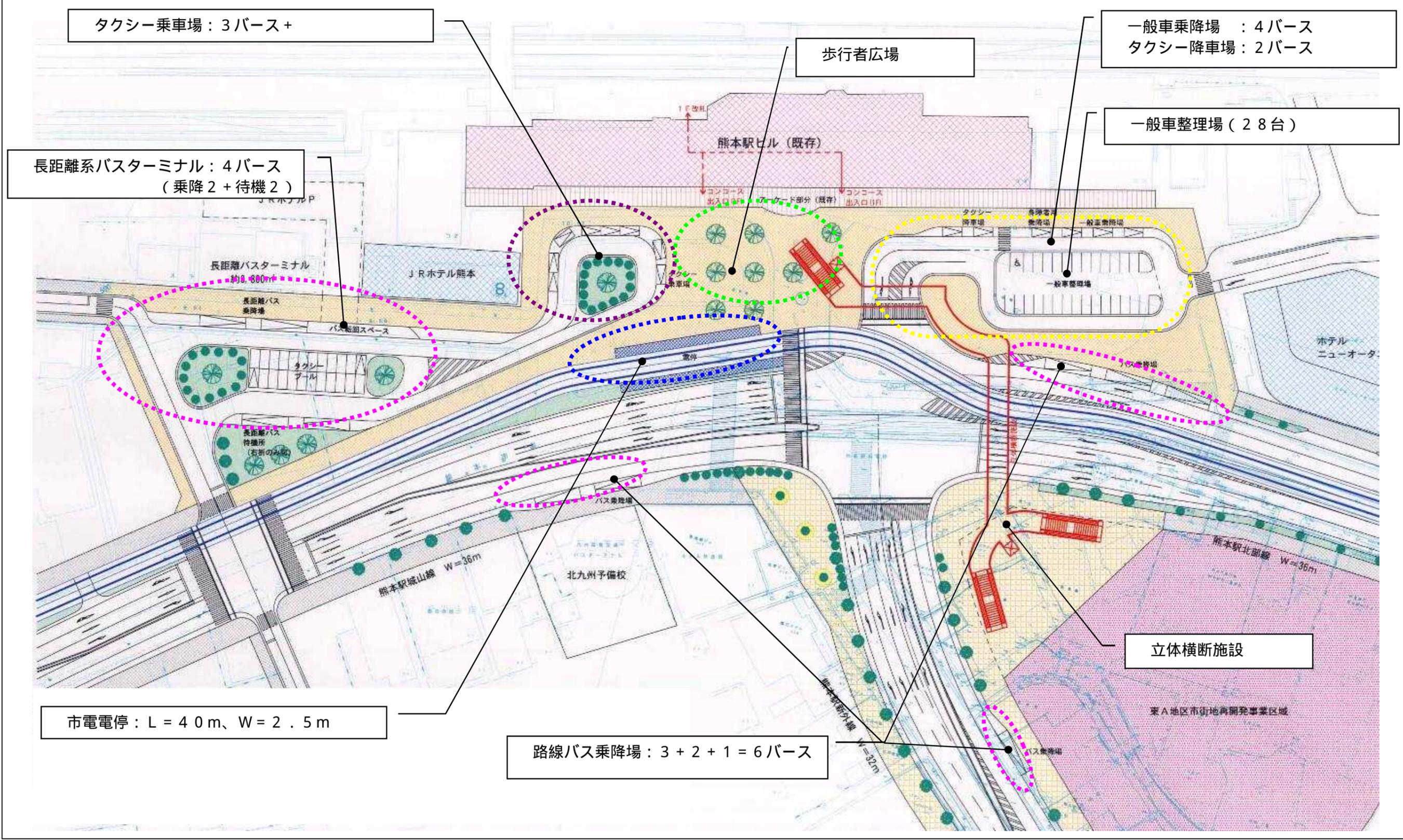


暫 定 形
 (新幹線開業時 H23)

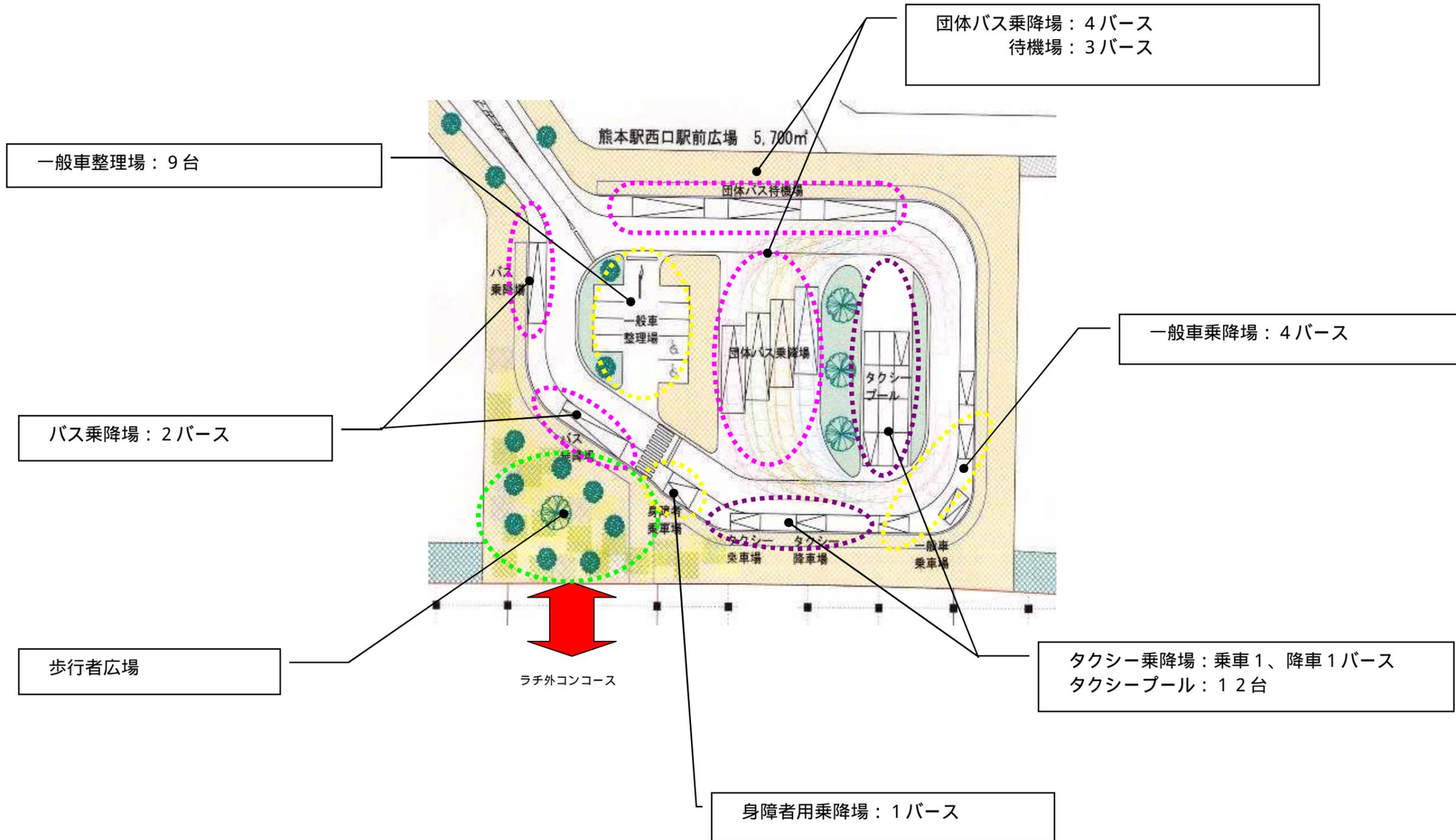


完 成 形
 (在来線高架完了時 H30)

東口駅前広場計画（暫定時）



西口駅前広場計画



4 . 高架下の利活用について

4 - 1	駅直近部の利用イメージについて	3 3
4 - 2	高架下等利用事例	3 4

4. 高架下の利活用について

4-1 駅直近部の利用イメージについて

熊本駅周辺 歩行者・自転車動線計画（案）

県市作成のイメージで、各施設の配置は決まったものでなく、今後JR九州等との協議が必要。



	歩行者骨格動線
	歩行者副動線
	自転車主要動線
	総合案内サイン(乗換、周辺施設)
	移動案内サイン(周辺施設)

歩行者動線としてラチ外コンコースの南北にも施設を複数配置。
(右図は具体的な位置を示すものではなく、必要性の概念を示す。)

駐車場は、道路との接続条件に留意するとともに、隣接土地の利用方針を勘案し検討。

駐輪場は、ラチ外コンコースに近く歩行者動線にも近い場所で、利用者の動線を考慮し南北への分散配置を検討。

観光案内所は、改札口に近い来訪者に判り易い場所への設置を検討。

観光物産施設等は、ラチ外コンコース近くで商業・業務等が立地する場所への設置を検討。

～ 高架下等利用事例 ～

< 高架下等利用例 >

- ・駐輪場、公園
- ・防災倉庫、観光案内所
- ・県産品紹介所など・・・

～ 交番 ～



～ 生涯学習等拠点施設 ～



～ 公園 ～



～ 駐輪場 ～



～ 駐車場 ～



～ 観光物産館 ～



～ 店舗 ～



～ 飲食店 ～



5 . 熊本駅舎の役割と整備のあり方について

5 . 熊本駅舎の役割と整備のあり方について

5 - 1 目的及び経緯

駅舎の設計は、施行主体である鉄道・運輸機構、JR九州が行うが、熊本の陸の玄関口である熊本駅舎のデザインについては、県市の意向を反映させるため、**設計の基本となるデザインコンセプトを両者に提示する予定である。**

- ・H16.12 駅舎デザインコンセプト県市素案公表
- ・H17.1 県市素案に対する御意見の募集
- ・H17.2 御意見を反映させた県市案の作成

5 - 2 県市デザインコンセプト(案)

御意見を反映させた県市案は下記の通りである。

未永く熊本の陸の玄関として在り続けられる風格や、熊本らしい独自性を持っていること
訪れる人に親しみや安らぎを感じさせるものであること
ユニバーサルデザインを取り入れた人にやさしい駅が表現されていること

5 - 3 今後の予定

